

一部事務組合報告

町の事業を他の市町と共同して行っています。それぞれの組合議会で、視察研修を行いました。

坂戸地区衛生組合

10月28日、秩父市環境部「清流苑」、彩の国資源循環工場内のオリックス資源循環株式会社及び、よりイコンポスト株式会社との1施設2企業を視察研修しました。

隣接住民との一体化

秩父市環境部「清流苑」は、隣接住民との一体化を図るため、場内はテニスコートを備えた運動公園となっており、住民に開放されています。



彩の国資源循環工場内を視察

処理方式は、生物学的脱窒素処理方式で、作業環境の改善、公害防止に万全を期し、臭気が拡散することのないよう配慮がなされています。

埋立てなしのシステム

オリックス資源循環株式会社では焼却灰や飛灰などが一切発生しないことで、埋め立て処分には依存しないシステムとなつています。排気ガスも燃料用ガスとして発電に利用されています。

埼玉西部

環境保全組合

11月8、9日、3力所の視察研修を行いました。

溶融炉は

西秋川衛生組合高尾清掃センターは、あきる野市・日の出町・檜原村・奥多摩町で構成されています。

流動床式ガス化溶融炉



熱回収施設の処理方式は、流動床式ガス化溶融炉でごみは500〜600°Cの流動する砂と混合し、ガス化炉で熱分解後約1250°Cの高熱で灰分を溶融し、減容化、無害化を図ります。

蒸気タービン発電機では最大1900キロワットの発電をしています。

町単独の最終処分場

静岡県長泉町は、町単独で一般廃棄物最終処分場をもっています。

一般廃棄物最終処分場は特別目的会社と長泉町が契約し、平成18年4月に完成しました。15年後長泉町に無償で譲渡移管されます。

PF1方式の施設は

富士山エコパーク焼却センターは、PF1事業者が御殿場市・小山町広域行政組合と契約し、組合が、運営維持管理し、更に焼却灰の資源化、適正処理も行われています。最大2500キロワットの発電をしています。

西入間 広域消防組合

10月13日と14日、視察研修を行いました。

消防研究センター

東京都調布市の消防大学校消防研究センターで、消防科学技術と消防研究センターの果たす役割を研修しました。ここは、消防職や消防団員の活動を科学技術の面から支え、貢献している研究施設でした。

視察

甲府地区広域行政事務組合の中央消防署で、庁舎内部の防火衣服の収納室や個室型の仮眠室といった施設の見学を行いました。

ました。

消防操法大会を見学

14日は、長野オリンピックスタジアムで開催の全国消防操法大会があり、埼玉県代表の小鹿野町消防団などや全国消防団の高い消防技術、技能向上への取組みを視察できました。



日頃の訓練の成果を競う消防団員

汚泥30%削減の施設

真岡市水処理センターでは、汚泥を凝集し、常に圧力をかけて固形物を浮上させ、削り取る常圧浮上濃縮機及び凝縮汚泥を液化とメタンガス化させる消化槽などを視察しました。ここでは、汚泥が30%削減されているとのことでした。

汚泥を燃やす施設は

栃木県下水道資源化工場は、汚泥を燃やし、その灰でスラグをつくるのが有名でした。

しかし、原発の事故で、スラグ化は中止になりました。

焼却灰の約4割はセメント会社で原料になりますが、6割は埋め立てられています。汚泥を燃やすと汚泥の量は12分の1に縮減されます。

毛呂山・越生・鳩山 公共下水道組合

11月15、16日、真岡市水処理センターと栃木県下水道資源化工場を視察



原発の事故前にできたスラグを手取る視察中の議員